

令和6年度自己評価計画書

重点目標	具体的取組	担当	現状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備考
1. 不断の授業改善により、生徒の主体的・対話的な学びを実現し専門職にふさわしい実践力を身につけ、国家試験全員合格を継続する。	① 事例検討、発表、考察などの「主体的・対話的な学び」を取り入れることにより、思考力・判断力・表現力の向上を図る。	教務課	知識・技能の習得に意欲的な生徒が多い。理解したことを活用する力を伸ばし、専門職にふさわしい実践力を身に付ける必要がある。	【努力指標】 身に付けた知識・技能を活用し、思考を深める場면을適宜設定している。	「授業は知識・技術、新しい見方・考え方が身に付き、自分の力になっている」と評価した生徒の割合が A 85%以上 B 80%以上 C 75%以上 D 75%未満 である。	C 以下 の 場合は、授業形態、授業内容を再検討する。	生徒による授業評価を7月・12月に実施する。
	② 協働学習や疑問点を自ら解決する場面を通して、主体的な学習態度を育成する。	教務課	知識・技能の習得に課題がある生徒もおり、生徒の学びを深め、主体性を引き出す必要がある。	【満足度指標】 生徒の主体的な学びの場면을適宜設定している。	「分からないことは質問したり、調べたりして理解するようになっている」と自己評価した生徒の割合が A 85%以上 B 80%以上 C 75%以上 D 75%未満 である。	C 以下 の 場合は、課題内容や学習指導の方法を再検討し、個別指導の充実を図る。	自分自身の学習の取り組みに対する評価を7月・12月に実施する。
	③ 専門教科の知識・技術の確実な定着を図るため、目標レベルに達するまで補習・個別指導を実施する。	衛生看護科 本科	国家試験演習で、本校が目標とするレベルに達していない生徒がいる。	【成果指標】 看護師国家試験演習の偏差値の目標レベルを全生徒が達成している。	偏差値40未満の生徒が A 0人 B 1～2人 C 3～4人 D 5人以上 である。	B 以下 の 場合は、個別指導を行う。	看護模試（全国）を実施し、評価する。

		専攻科	国家試験演習で、本校が目標とするレベルに達していない生徒がいる。	【成果指標】 〈専攻科1年生〉 基礎力を確認する全国看護師国家試験演習の偏差値42未満の生徒が0人である。 〈専攻科2年生〉 全国看護師国家試験演習の偏差値42未満の生徒が0人である。	〈専攻科1年生〉 偏差値42未満の生徒が A 0人 B 1人 C 2人 D 3人以上である。 〈専攻科2年生〉 偏差値42未満の生徒が A 0人 B 1人 C 2人 D 3人以上である。		
③	<1年生> 合格を目指して学習する習慣が身につくように、SH時に行われる漢字テスト、英単語テストに合格できるように指導する。 <2年生> 国家試験合格に必要な基礎力を身につけるために、毎週介護福祉検定2級レベルの小テストを実施する。	健康福祉科	<1年生> 合格を目指して主体的に学習に取り組む姿勢を身につける必要がある。 <2年生> 合格するために粘り強く取り組むことや効果的に学習に取り組むことが苦手な生徒がいる。	【成果指標】 <1年生> SHに実施される小テストに合格する。 <2年生> 小テストに合格する。	<1年生> 小テストに80%以上合格している生徒の割合が A 100% B 90%以上 C 80%以上 D 80%未満 <2年生> 小テストに80%以上合格している生徒の割合が A 100% B 90%以上 C 80%以上 D 80%未満	<1年生> C以下の場合、個別指導をより丁寧に行う。 <2年生> C以下の場合、個別指導をより丁寧に行う。	毎月、生徒個々の合格率を確認する。 毎月、生徒個々の合格率を確認する。

				介護福祉検定二級に合格する。	合格した生徒の割合が A 100% B 90%以上 C 80%以上 D 80%未満	C 以下の場合は、個別学習を実施する。	検定後に確認する。
	<3年生> 介護福祉士国家試験全員合格に向けて、小テストや個別指導を行う。	<3年生> 国家試験演習で一定のレベルに達していない生徒がいる。	<3年生> 全員の国家試験演習及び国家試験の個人得点率が65%未満の生徒が0人である。	<3年生> 国家試験演習等で個人得点率が65%未満の生徒が A 0人 B 1人 C 2人 D 3人以上 である。	<3年生> B 以下の場合は、取り組み方法を再検討する。		国家試験演習ごとに達成率を確認する。

重点目標	具体的取組	主担当	現状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備考
2: 生徒会活動・部活動、ボランティア活動などを活性化させ、心身の健康とレジリエンス涵養を図り、活気ある学校づくりを推進する。	① 体育祭や球技大会などの生徒会活動を縦割り班で実施することで、生徒同士の交流を図り、活気ある学校作りを推進する。	生徒会	他学年、他学科の生徒同士の交流を図る機会が少ない。	【成果指標】 縦割り班活動を通じて、他者と協働して困難を乗り越える力をつける。	縦割り班活動を通じて、他者と協働して困難を乗り越える力がついたと答える割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満 である。	C 以下の場合は、次年度に向けて、方法を検討し直す。	行事や活動後にアンケートを実施する。

	②	生徒のセルフケア促進に向けて、生活習慣、発達段階、災害フェーズを踏まえた活動を実施する。	保健課 教育相談課	思春期特有の揺らぎや震災による心身のストレスへ適切に対処することが困難な生徒がいる。	【成果指標】 活動により生徒のセルフケア能力が促進される。	活動が自分の今後の学校生活に活かされると回答した割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満 である。	C 以下の場合は、今後の取り組み内容を検討する。	それぞれの活動後にアンケートを実施する。
	③	「田鶴浜高校いじめ防止基本方針」に基づいて、いじめのない学校作りを推進する。	生徒指導課	「いじめを絶対許さないという意識」を持つ生徒は多いが、人間関係のトラブルが起こる可能性は様々なところがあり、生徒の「いじめ防止」への意識は常に持たせなければならない。	【成果指標】 講演会や授業等で人権教育の啓発を行うことで、生徒の「いじめを絶対に許さないという意識」が高まっている。	生徒アンケートで「互いの人格を尊重し、いじめを絶対に許さないという意識」について、「大いに高まった」と「高まった」の回答が A 95%以上 B 85%以上 C 75%以上 D 75%未満 である。	C 以下の場合はいじめの未然防止の取組の見直しをする。	7月、12月に全校生徒を対象とした「いじめ意識アンケート」を実施する。

重点目標	具体的取組	主担当	現状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備考
3 本校の特色ある教育活動や、地域の医療・福祉を支える人材の必要性等の広報に工夫を重ね、志願者の増加を図る。	① 体験入学、学校説明会等の各種説明会の内容を充実させるとともに、中学生・保護者の参加人数の増加を図り、本校の教育活動とその成果の広報を強化する。	教務課	地域の医療・福祉を支える人材育成が期待されているが、両科の志願者数は減少している。	【成果指標】 体験入学、各種説明会の参加者数が昨年度より増加している。	昨年度より、体験入学、各種説明会の参加者数が A 上回った。 B 同程度だった。 C 下回った。 D 大きく下回った。	C 以下の場合は開催時期と内容、広報活動の見直しをする。	9月・12月に各種参加者数を集計する。

	②	本校の特色ある学校行事の取り組みや、衛生看護科・健康福祉科生徒の活躍を地域に向けて発信する。	総務課 衛生看護科 健康福祉科 GIGA	ホームページを更新しているが、保護者も頻繁には見ていない。保護者及び地域への情報発信方法に工夫が必要である。	【最終成果指標】 アンケートで、大部分の保護者が、本校の情報発信が十分なされていると答える。	本校は十分に情報提供をしていると答える割合が、 A 50%以上 B 40%以上 C 30%以上 D 30%未満	C以下の場合には 広報活動の見直しをする。	保護者へのアンケートを5月・7月・12月に実施する。
--	---	--	-------------------------------	--	---	---	--------------------------	----------------------------

重点目標	具体的取組	主担当	現状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備考
4. 教職員・生徒のICT機器の利活用を進めるとともに、業務の平準化・ワークライフバランス意識の向上により多忙化の解消に努める。	① 時間外勤務を減少させるため、ICT活用の定着を図りながら業務の効率化を進める。	管理職	業務の効率化の意識が浸透しつつある一方で、固定化された教員が長時間勤務している実態が見られた。組織的に業務の平準化を推進するよう働きかけていきたい。	【最終成果指標】 昨年度より一月あたりの時間外勤務時間が45時間未満の教員の割合が増加している。	具体の取組を積極的に進め、一月あたりの時間外勤務時間が45時間未満の教員の割合が、 A 75%以上 B 65%以上 C 55%以上 D 55%未満 である。	C以下の場合には 業務の効率化の取組の見直しをする。	